

平成28年度 研修記録



茨城県学校長会
県西部地区校長会連絡協議会

「研修記録」発刊にあたって

県西地区校長会連絡協議会会長 湯本 春雄



深まりゆく秋を迎え、各校におきましては研究発表会や部活動等を中心大きな実りを上げていることと思います。特に昨年9月の関東・東北豪雨により被災されました県西各地の学校が、教育委員会の迅速な対応や地域の皆さんの協力及び教職員の献身的な努力等により、どの学校もほぼ正常な学校運営ができるようになり、子どもたちの笑顔や歓声が戻ってきましたことを大変うれしく思います。このような折に、県西地区小中学校長152名が一堂に会し、平成28年度県西地区校長研究協議会を開催できましたことに心から感謝申し上げます。また、ご多忙のところ、ご来賓といたしまして、茨城県県西教育事務所長 稲川 善成 様、県西地区市町教育長代表 赤荻 利夫 様、県学校長会副会長 佐藤 和男 様、講師として県西教育事務所の先生方のご臨席を賜りましたことに、心から御礼申し上げます。

今回の研修会では、研究主題を「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」といたしました。分科会におきましてご提案をいただきました豊岡小学校長 吉田 典子先生、諸川小学校長 服部 仁一先生、猿田小学校長 大武 浩治先生、下館北中学校長 菊池 光彦先生、境第二中学校長 近納 くに江先生には、お忙しい中レポートを作成して、ご発表いただきましたことに心から感謝申し上げます。5つすべての分科会におきまして、具体的な実践に基づいたすばらしい提案がなされ、活発な意見交換や情報交換等がされました。また、助言者の先生方からは貴重なご指導をいただき、大変有意義な研修となりました。各校におきまして、明日からの学校経営に大いに役立てていただくことを期待しています。

講演会では、オリンピック4大会出場のクレ射撃選手 中山 由起枝先生より「五輪と私」の演題のもとにご講演をいただきました。高等学校時代にはソフトボール部のキャッチャーとしてインターハイ準優勝を果たすなど大活躍をされていました。ソフトボールで培った動体視力、瞬間視、瞬発力等の高さを見込まれ、クレ射撃を会社のシンボルスポートにしたいとの強い要請を受けて、現在の会社に1997年に入社しクレ射撃を始められました。高校時代の恩師から、「ソフトボールもクレ射撃も競技者としては変わらない」の一言で後押しされたとのことでした。競技を始めてわずか1年11ヶ月で、2000年シドニーオリンピックの日本代表となりました。しかし、シドニーオリンピックでは、思うような結果が出せず引退し、その後結婚して女兒を授かりました。競技をやめて始めて「オリンピック等のエキサイティングな場所で競技できることの幸せ」を理解し、2004年に競技に復帰しました。2008年北京オリンピックでは日本女子トラップ至上最高順位となる第4位を獲得し、2015年アゼルバイジャン W 杯大会では日本最高新記録をマークして優勝するなど、36歳にしてなお進化を確認しているとのことでした。現在リオデジャネイロオリンピックが終了し、日本ではクレ射撃のコーチがいないので、「次の世代の競技者のために現在コーチ学」を学んでいます。「チャンスを呼び込む力が大切である」とまとめて下さいました。最後に参加者からの質問に「私の子育ては、自分を磨く姿を子どもに見せることでしています」と答えられました。多くの校長先生方が、笑顔を絶やさず、力強く話される姿から、「非常にポジティブで旺盛なチャレンジ精神」を感じたものと思います。子どもたちの未来に関わる者として、今後の学校経営に大いに参考になるものでした。

本研修会は、全校長先生方が集まりともに研修する貴重な機会であり、今後の学校運営の一助となるとともに、互いに校長としての意識を高め合えるものと言えます。また、研究委員の先生方のご努力で作成されたこの研修記録には、学校が直面している諸課題の解決のためのヒントがまとめられており、有効な資料となっています。さらなる経営改善に生かしていただければ幸いです。

最後になりましたが、「県西地区校長研究協議会」の計画並びに準備・運営等をきめ細かく進めていただきました県西校長会研究委員の先生方に深く感謝申し上げます。

目 次

県西地区校長研究協議会記録	1
第1分科会（小学校）	2
○ 提案発表 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」 － 職員一人一人の持ち味を生かし、組織力を高めるための取組 －	
○ 研究協議・講師指導	
第2分科会（小学校）	4
○ 提案発表 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」 － 地域の教育力を生かした人づくりをめざして －	
○ 研究協議・講師指導	
第3分科会（小学校）	6
○ 提案発表 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」 － 極小規模校の特色を生かした学校づくり・人づくり －	
○ 研究協議・講師指導	
第1分科会（中学校）	8
○ 提案発表 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」 － 信頼される学校づくりを目指して －	
○ 研究協議・講師指導	
第2分科会（中学校）	10
○ 提案発表 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」 － 生徒一人一人の学ぶ意欲を高める学校経営を通して －	
○ 研究協議・講師指導	
教育講演会	12
演 題 「五 輪 と 私」	
講 師 リオデジャネイロオリンピック クレー射撃日本代表 中山 由起枝 先生	

県西地区校長研究協議会記録

- 1 期 日 平成28年10月18日（火）
- 2 会 場 茨城県県西生涯学習センター
- 3 主 催 茨城県学校長会 県西地区校長会連絡協議会
- 4 目 的 茨城県学校長会の活動目標を踏まえて、学校経営の創意に視点を置き、当面する諸課題について研究協議し、施策の具体化を考究するとともに、校長としての資質の向上に資する。
- 5 研究主題 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」
- 6 参 加 者 県西地区小中学校長 152名
- 7 講 師 茨城県県西教育事務所 人 事 課 長 篠崎 浩 先生
 学 校 教 育 課 長 飯村 晃 先生
 管 理 主 事 栗原 恵子 先生
 管 理 主 事 加藤 次男 先生
 主任指導主事
 兼生徒指導班長 田中 章公 先生
- 8 来 賓 茨城県県西教育事務所長 稲川 善成 先生
 茨城県県西地区市町教育長代表 赤荻 利夫 先生
 茨城県学校長会副会長 佐藤 和男 先生
- 9 日 程 受 付 12:30～12:50
 全体会 13:00～13:40
 分科会 13:50～15:10
 （小学校3分科会，中学校2分科会）
 講演会 15:25～16:45
- 10 全体会（開会行事） 13:00～13:40
 (1) 開会のことば
 (2) 県西地区校長会連絡協議会会長あいさつ
 (3) 茨城県学校長会会長あいさつ
 (4) 来賓あいさつ
 茨城県県西教育事務所長 稲川 善成 先生
 茨城県県西地区市町教育長代表 赤荻 利夫 先生
 (5) 来賓及び講師紹介
 (6) 日程説明及び会場案内
- 11 教育講演会 15:25～16:45
 演 題 「五輪と私」
 講 師 リオデジャネイロオリンピック クレー射撃日本代表
 中山 由起枝 先生

小学校 第1分科会

司会者 常総市立水海道小学校 石塚 哲也
提案者 常総市立豊岡小学校 吉田 典子
記録者 常総市立三妻小学校 荒木 郁子
講師 県西教育事務所 管理主事 栗原 恵子 先生



【協議題】 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」
―職員一人一人の持ち味を生かし、組織力を高めるための取組―

常総市立豊岡小学校長 吉田 典子

【提案趣旨】

1 はじめに

本校に着任して2年目で校長として2校目であるが、教職員集団は多様な資質能力を持つ個性豊かな人材である。教職員一人一人の持つ力を最大限に発揮させ、組織を機能させ、学校の教育力を高めていくのが、校長の責務であると考えている。

2 本校の概要

本校は、常総市の南西部、鬼怒川西に位置し、周りは田園風景が広がっている。祖父母と同居している児童が多いが家庭環境は多種多様である。外国人の保護者も多い。児童数268名、13学級、教職員30名。児童は素直で明るく、教職員は協力体制が整っている。

3 取組の実際

(1) 組織力向上のための共通目的の明確化

- ① 学校教育目標のめざす児童像の具体化 ② 学級経営案の工夫
- ③ 教員評価の自己目標を生かした意識の啓発

(2) 協働意欲を高め、コミュニケーションを向上させる取組

① 学校力向上プロジェクトチームによる学校運営

【学力向上プロジェクト】・・・リーダー：教務主任＋研究主任

学習指導法の改善、朝ドリルの有効的な活用、話す・聞く力を伸ばす、家庭学習の定着、校内研修で各学年ごとの話形等の作成、マイ辞書の活用

【豊かな心育成プロジェクト】・・・リーダー：生徒指導主事＋道徳主任

スキスキ週間の継続、豊小いきいきタイム(異学年交流)の充実、児童集会の充実

【体力向上プロジェクト】・・・リーダー：保健主事＋体育主任

豊岡ビンゴの継続と充実、健康週間の継続と提出率の向上、外遊びの推進

- ② 教育課程編成上の工夫・・・算数：TTで2人体制、社会・理科：免許保持者が担当
- ③ 研修体制の整備と研修内容の充実

ア 研究テーマの設定：「日常の事象を数理的にとらえ、問題解決できる児童の育成」

イ 研究組織運営：研究主任・各部会のチーフ・教務主任・教頭の役割の明確化

ウ 研修意欲の向上をめざして：一人1回希望研修会への参加

エ 学力向上プロジェクトチーム訪問指導、市指導課の指導を生かす

(3) その他の取組

- ① 児童の算数学習への関わり・・・さんすうチャレンジ問題、九九検定
- ② 教職員への働きかけ・・・月の学校経営の発行、豊小校長室だよりの発行

4 成果と課題

成果として、共通目的の意識が高まったことで、高い協働意識が見られるようになった。課題としては、ミドルリーダーとなるべき40代教員が少ない。学校の組織力を継続していく仕組み作りが必要である。

5 おわりに

楽しく、信頼される、働きがいのある学校となるようリーダーシップを発揮していきたい。

【研究協議】 ※ 司：司会，質：質問，答：答え，発：発言

質 組織目標をどんなことに留意して立てると、全職員が日常的に意識することができるか。

答 組織目標は、1つ目は「毎日行きたくなる楽しい学校にする」で、
どういう学校かは、それぞれのプロジェクトの目標にしているものを具体的にグランドデザインに示した。2つ目は、年間読書 50冊全員達成など数値で示した。職員が日常的に意識するように、月ごとの学校経営に明記し配付している。



質 自校のグランドデザインを作成する上で資料にある2点を念頭に
したとあるが組織目標との整合性や作成上の苦勞を教えてください。

答 教育目標を達成するために、職員が動きやすいようにグランドデザインに示し、2点は自分
の中でこのようになるように念頭においてプロジェクトを動かしている。

質 校長として、毎日大事にしていることと学校の組織力を継続するために、どのようなことを
しているかを教えてください。

答 全職員を動かすことが自分の仕事と思っている。毎日学校内を歩き回り、子どもと関わって
いる。何か気づくと、人間関係を崩さないように指導している。また、何かをやらせたいと
きは褒めるようにしている。例えば、毎朝、登校指導をしながら、落ち葉はきをしており、
手伝う児童を全校集会で紹介し、褒めた。次の日、手伝う児童が倍増した。

司 各学校で、校長として毎日行っていることをお話ください。

発 誰も褒められるとうれしいと思うので、年配の先生方に常に労いの言葉をかけたり、他の先
生方には子どもたちへの言葉かけや授業の返しなどで気づいた時に声をかけたりしている。

質 自分は朝正門のところで子どもたちを迎えたり、交差点で立ってくれている地域の方々に挨拶
をしたりしている。しかし、校長は朝職員室にいて、先生方に声をかけたほうがいいとい
う意見も聞く。どちらがいいのか。

発 学校の職員の状況によると思う。指導しなくてはいけない職員がいた場合は、教頭・教務と
の連携でできる。自分は、授業参観を毎日のようにしている。いいなと思ったことを、教務
主任が作成する週案の下に「校長の独り言コーナー」を作り、掲載している。教師の名前は
出さないが、自分のこととわかり、先生方の授業が変わってきた。

質 職員一人一人の持ち味を生かすのは、職員を理解していないとできないので、普段から校長
として努力され、豊岡小の理科の先生の持ち味を生かした例は大変参考になった。他にも職
員を生かした例があったら教えてください。

答 7年目、6年担任、体育主任の職員は、細かく先を見通して動いている。教頭・教務が自分
の意図を汲んで、細かいところで動いてくれているので、一般の職員も動いてくれる。

【講師指導】

○ 学校の力が高まっている学校は、共通して全職員が動いて1つになっている。組織力を高め
るためには、「目標を共有する（戦略と戦術）、教職員を信頼する、教職員一人一人に責任を
もたせる」ことが大切だと考える。吉田校長先生は、豊岡小の実情に合わせて、こんなふうに
集団を高めていきたいという2つの組織理念を、実践の中にたくさんちりばめている。

○ 組織力向上のための共通目的の明確化を図るために、全職員で話し合い、目標を設定するこ
とで、目標を共有し、組織のベクトルが合い、主体性が生まれる。組織目標は、みんなで立て
ないとだめだと思う。スロット分析や学校評価・教員評価等で課題を見つけ、単年度で解決で
きるもので、教員の姿で選定することが大切。

○ 協働意識を高め、コミュニケーションを向上させるために、プロジェクトチームを活性化さ
せ、一人一人の役割分担をして、学校経営に取り組んでいて素晴らしい。教職員を信頼し、一
人一人に責任をもたせることで、組織力が向上している。適材・適所に職員を配置し、自己有
能感が持てるように仕組んでいる。

○ 「チームとしての学校」における校長の役割は、教育政策の意味の説明、専門性に基づくチ
ーム体制の構築、教職員一人一人との対話により期待感を伝えリレーションを深めることであ
る。組織力を高めるために、戦力的な仕掛けを組んでほしい。

小学校 第2分科会

司会者	古河市立駒込小学校	菊地 満
提案者	古河市立諸川小学校	服部 仁一
記録者	古河市立仁連小学校	倉持 達哉
講師	県西教育事務所 管理主事	加藤 次男先生



【協議題】 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」
ー地域の教育力を生かした人づくりをめざしてー

古河市立諸川小学校 服部 仁一

【提案趣旨】

1 はじめに

本校は「かしこく」「やさしく」「元気な子」の学校教育目標実現のため、保護者や地域住民の意向を十分に反映し連携を強化しながら、職員と地域が一体となり次代を担う未来が求められる人づくりに取り組んでいる。

2 本校の概要

児童数534名、学級数22、教職員は31名で、平均年齢は43歳。児童は、明るく素直で活発である。

3 地域の教育力を生かした教育活動の実践

(1) 学校間連携

- ① 小小PTA連携(諸川小, 大和田小, 駒込小)
- ② 小中連携(三和北中と学区の小学校)

(2) 学力向上

- ① 家庭の協力
 - ・チャレンジテストの重視, 家庭学習の充実
 - ・早寝・早起き・朝ごはん
- ② 地域・関係機関との協力
 - ・学びの広場(4, 5年), サマースクール(1, 2, 3, 6年)
 - ・移動博物館
 - ・地域の学習(生活科校外学習2年 社会科校外学習3年)
 - ・おもしろ理科先生派遣事業
 - ・県林政課自然体験事業(5年)
 - ・第2土曜日の地域での活動

(3) 環境教育や心の教育

- ① 朝の会, 昼休みの読み聞かせ(お話し会)
- ② 緑の少年団(6年)
- ③ 手話の学習(3年), 特別支援学校との地域交流会

(4) 安全・安心

- ① 諸川自治区地区長とスクールパトロール隊, 防災訓練・避難訓練・引き渡し訓練
- ② 通学路カーブミラー拭き

(5) 地域との交流会

- ① 諸川自治区地域コミュニティー(竹とんぼ)主催の夏祭りへの参加
- ② 諸小祭り
- ③ 老人会との交流会(5年), 新入予定幼稚園児との交流(5年)

4 終わりに

学校・保護者・地域が一体となって, 児童534名一人一人をダイヤモンドとして光り輝けるよう地域ぐるみで目指していきたい。

【研究協議】 ※ 司：司会，質：質問，答：答え，発：発言

質 地域・関係機関との協力の中で、校長の発案やかかわりはどのようなものか。

答 県林政課自然体験事業（５年）において、県からバス３台出してもらって宿泊学習と組み合わせることで、事業内容の充実を図ることができた。その他の学校行事は、前年度踏襲を避け一工夫加えることで感動を与えられるような内容にしていくことを助言した。

質 職員のモチベーションを高めるために、どのようなことをやっているか。

答 まずコミュニケーションをとること。『経営の心構え』にあるように、職員室は相談・やすらぎの空間にしたい。「仕事は楽しく、遊びは真剣に」のチーム諸川をつくること等をモットーにしている。その遊びの発想が、新しいものの創造や工夫につながり内容も充実してきている。

質 どのように防災訓練を行っているか。

答 区長さんの代表がスクールパトロールの代表でもあるので、常に足を運んで情報交換を行っている。その代表が全部計画してくれて学校は協力し実施している。

司 保護者や地域の人々が、校長の学校経営のビジョンの共有が大変重要であると言われているが、校長としてどのように図っているか。

発 次の３点をいつも念頭に置いている。地域をよく考えていること。教職員が校長のビジョンをよく理解すること。子供の姿を地域によく見てもらい知ってもらうこと。



【講師指導】

- 服部校長の発表から
 - ・学校教育目標の実現のため、「夢はでっかく。光り輝け！諸小ダイヤモンド(534カラット)」をスローガンに、子供たちに“感動あふれる学校”を提供することを目指している。感動がまさに人を変えるという校長先生の体験が生かされている。また、学校の課題を解決するために、地域の教育力をどうにか生かしていくという熱い思いが伝わってきてとても素晴らしい取組である。
- 地域と学校の連携・協働を推進するため、先進的な取組を紹介する参考事例集として、「地域と学校の連携・協働に向けた参考事例集」H28.4.28 文科省を参照されたい。
- 地域学校協働活動の定義
 - ・地域と学校が連携・協働して、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動
- これからの地域と学校の目指すべき連携・協働の方向性
 - ・地域とともにある学校への転換
 - ・子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
 - ・学校を核とした地域づくりの推進
- 一つ一つの取組について、コーディネート機能を強化することが不可欠である。校長以外に多くの先生方もコーディネートしていくことが内容充実につながり重要である。
- あらゆる年代の人たちと交流して、諸川小学校の子供たち(ダイヤモンドの原石)の良さが磨かれ、児童 534 名一人一人がダイヤモンドとして光り輝いている。さらに、地域の教育力を生かし、地域と学校の連携・協働を進めていってほしい。

小学校 第3分科会

司会者 桜川市立谷貝小学校 杉山 靖
提案者 桜川市立猿田小学校 大武 浩治
記録者 桜川市立真壁小学校 藤田 正美
講師 県西教育事務所 学校教育課長 飯村 晃 先生



【協議題】 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」
— 極小規模校の特色を生かした学校づくり・人づくり —

桜川市立猿田小学校長 大武 浩治

【提案趣旨】

1 はじめに

本校に赴任して2年目。県西第2位の大規模中学校から県西最小の小学校への赴任であった。平成27年度は統合に揺れていたが、現在は落ち着いている。学校は4地区からなり、土砂災害危険地域となっている。児童数は27名で、学力は高い。昨年度は教務主任が1年間不在で大変であった。職員は、教務主任が40代で他は50代でプロ技を発揮している。20代の養護助教諭が児童に活気を与えている。

2 学校経営の概要

(1) 経営理念と教育目標

- ・人権尊重の精神を貫き、子供一人一人を大切にすること。3S(smile,service,safety)の推進
- ・「心豊かで、自ら学び、たくましい気力と体力のある子を育てる」

(2) 学校経営の方針 「ファミリー猿田」の意識のもと、「子供が主役」の学校づくり

(3) 組織目標の変更 知徳体の3文を1文に変更。「自他を大切に、自主的・自立的に行動できる児童を育てる」

(4) 合い言葉の設定 ㊟わやかな笑顔で、㊟ールを守り、㊟ゆまぬ努力を続ける子

(5) 研究の実践

① さわやかな笑顔＝楽しい学校のために

- ・複式学級2学級で、「学び合い」によるアクティブ・ラーニングの実践
- ・年間読書50冊達成は100%、体力テストA+Bは92.6%達成
- ・校長自ら学力向上通信「ぐんぐん」や校長通信「BACK UP」を発行し、朝の自習や自転車競技会の学科を指導している。
- ・縦割り班活動で連帯意識を育成。全校児童での市音楽会参加。欠席0は現在87日。
- ・企画会が実施できるようになった。月の運営計画を1ペーパーで提示している。

② ルールを守り＝自他を大切にすることの育成のために

- ・特活を中心に実践。子供たちは自主的にボランティア。学校や他に対する貢献意欲旺盛。
- ・小中連携で岩瀬東中学区「君の笑顔がみ隊」活動・猿田小イメージキャラクター作成。
- ・猿田フェスティバルで3世代交流、家庭教育学級は全児童・全保護者参加。
- ・校長自ら道徳、書写の授業をし、子供たちへの誕生日プレゼント（しおり）も作成。

③ たゆまぬ努力を続ける＝自主・自立のために

- ・800個のプランターを児童・職員が一丸となって栽培、3年生が陸上の壮行会運営。
- ・2年生から運動会の係活動・小小連携で合同での宿泊学習、修学旅行、校外学習実施
- ・学びの広場に岩瀬東中、岩瀬日大高の協力・学校評価項目の見直し
- ・教員評価の中間評価シートの実施

3 終わりに

- ・「ファミリー猿田」の実行で児童・保護者が満足感を覚えている。
- ・大舞台での子供の萎縮が課題である。
- ・「協議＋傾聴＋承認＋信任＝育成」を信条として学校経営している。

【研究協議】 ※ 司：司会，質：質問，答：答え，発：発言

司 もう少し詳しく聞きたいことや感想はないか。

質 小規模校での職員のメンタルヘルスはどのようにしているか。児童の多様な考えが出にくかったり，競争意識が弱かったりするがどう対応しているか。小小連携・小中連携の工夫点についても教えてほしい。

答 校長以下の担任外でバックアップしている。各主任には，主任の業務をまず突破できるものから実施するよう指示している。多様な考えは，学び合いによるグループでの解決で対応している。また，競争意識の弱さは，縦割り班活動で補っている。小小連携では，教務主任が調整役となっており，月1回校長部会を開催している。

司 桜川市の小小連携・小中連携はどのようにしているか。

発 今までは各中学校区に任せていた。28年度からは研究会に位置付け，教育目標，目指す児童・生徒像，活動計画などを入れて年間プラン（さくらがわプラン）を作成している。どこの中学校区も宿泊学習は合同で実施している。平成30年度には，桃山中学校区が義務教育学校として開校する。

司 桜川中学校区でも全職員が集まって，分科会に分けて研修会を実施しており，毎月校長部会を実施している。

質 小規模校で担任の負担が多くなる反面，校長がやり過ぎると職員が伸びないと思うが，その辺の兼ね合いはどうか。

答 基本的に統計処理などは職員室の職員で対応しているが，担当に任せる部分は，きちんと任せている。花作りなどは，できるだけ担任外の指示で対応したり，養護教諭が運動会のライン引きをしたりしている。報告関係は，各担当に任せる。



【講師指導】

- 発表の中にあつた岩瀬東中の「絆づくりプロジェクト」は，非常に成果があがっており，県のHPにも公開されている。
- レポート全体で，小規模校よりさらに小さい極小規模校として，実態を把握してメリット・デメリットを踏まえた学校経営をしている。
- SWOT分析を全職員で行い，先生方の参加型によって経営の方針を作成している学校もある。
- 経営理念として，3S (smile, service, safety) をポイントに人権尊重を基盤に学校経営している。中学校区で目標を共有している。組織目標を3つから1つにしたということだが，短いスパンで具体的に職員が取り組めるものだととてもよい。
- (さ) (る) (た) をキャッチフレーズとして，経営が一貫している。
- 「さわやかな笑顔」の取組では，大武校長自ら「ぐんぐん」や「BACKUP」を示しリーダーシップを発揮している。
- 中学校区で目標を統一してあり，今後はカリキュラムをどうしていくか，岩瀬東中学校区でみんなで考えていく必要がある。
- 「ルールを守る」の取組では，校長が道徳の授業を行うなど心の教育を進めているのが素晴らしい。
- 「勤労生産，縦割り班活動」の取組では，計画的に進められていることが分かる。校外での体験を通して，どういう力が育てられるかを明確にして，これからの活動を充実させてほしい。
- 8月26日に文科省より，「審議のまとめ」が出されたので周知徹底してほしい。
- ある学校では，教師は課題提示だけして，あとは向かい合わせで子供たちに話し合わせ，課題解決をする授業が行われている。子供たちにきちんとまかせて考えさせていた。参考にするとともに，授業者には，子供たちへ説明の仕方を十分に指導するようにしてほしい。
- 校長の大切な仕事の一つに，教頭を育てるということがある。そのために，校長として，十分な場づくりをお願いしたい。

中学校 第1分科会

司会者 筑西市立下館南中学校 小島 久男
提案者 筑西市立下館北中学校 菊池 光彦
記録者 筑西市立明野中学校 齋藤 成美
講師 県西教育事務所 主任指導主事兼生徒指導班長 田中 章公 先生



【協議題】 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」
—信頼される学校づくりを目指して—

筑西市立下館北中学校長 菊池 光彦

【提案趣旨】

1 はじめに

本校は、校訓「自己を高めよ」の下、教育目標である「夢をもち未来に向かって生きる活力と創造力あふれる生徒の育成」を掲げ、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成をめざしている。その重点事項として「学力アップ・生活アップ・夢アップ」の3つのプロジェクトチームを生かした「信頼される学校づくり」を目指し取り組んでいる。

2 本校の概要

筑西市の北部に位置し、学校の東側に五行川が流れ、南東の遠方に筑波山を望む自然豊かな学校。生徒数 153 名、学級数 8（通常学級 6，特別支援学級 2）の小規模校。平成 25 年 8 月に新校舎が完成し、生徒たちはすばらしい環境のもと、落ち着いた生活を送っている。学習や部活動にも一生懸命取り組む姿が見られる。保護者や地域の方々も大変協力的である。

3 実践内容

(1) 学力アッププロジェクト（分かった、できたと思える授業づくり）

① 確かな学力に向けた授業づくり

ア ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり イ 校内研修の充実
ウ 補充学習・学び直し学習の場の設定による基礎・基本の確実な定着
エ 個に応じた家庭学習支援
オ 生徒一人一人の教育的ニーズの把握と特別支援教育の充実
カ 小中一貫教育の推進

(2) 生活アッププロジェクト（自己指導力を身に付けた生徒の育成）

① 基本的生活習慣の確立

ア あいさつ運動 イ 黙働清掃・自問清掃 ウ 時間を守る

② 学級・学年経営を基盤とした生徒指導の推進

ア 心の居場所づくり、絆づくり イ 学級活動の充実

③ 生徒指導体制の充実

ア 信頼関係を基盤とした生徒指導の充実 イ 「報・連・相・確」の徹底
ウ 生徒の心に寄り添う教育相談 エ 人権を尊重する態度の育成
オ いじめ問題の未然防止、早期発見と解決 カ 不登校の未然防止と対応強化

(3) 夢アッププロジェクト（希望と自信をもった意欲的な生徒の育成）

① 勤労観・職業観を育てる進路・キャリア教育の充実

② 生徒の自己肯定感を高める特別活動の工夫

ア 生徒が活躍できる場の設定 イ 生徒の自発性・自主性の尊重
ウ 特色ある取組の充実

4 おわりに

今後とも、各プロジェクトリーダーを中心とした組織体制の充実、教職員一人一人の学校運営参画意欲を高め、生徒に本気でかかわれる教職員チームにし、生徒・保護者が「この学校でよかった」と思える信頼される学校づくりに取り組んでいきたい。

【研究協議】 ※ 司：司会，質：質問，答：答え，発：発言

質 各プロジェクトチームのリーダーの人は。会議の設け方は。不登校生徒の課題については、チームの枠を外した会議を設けているのか。

答 リーダーは、省令主任，研究主任等ミドルリーダーを配置。プロジェクト会議は週時程に位置付けている。中心は教務主任で、取組内容・課題は、運営委員会で報告を受け、随時指導している。さらに、職員会議で情報を共有している。不登校生徒の課題は、生活アッププロジェクトが担当し、心の教育相談員，養護教諭，S C，また、自治医大とも連携し対応している。



質 各プロジェクトの活動内容を教員評価の目標設定に取り入れているか。不登校予備軍の対応はどのようにしているか。

答 校務分掌にリーダー，委員を位置付けているので、教員評価に絡めて取り組んでいる。リーダーによっては、目標設定が不十分な点もあり、面談等で期待感を伝え意欲を高めている。不登校予備軍の生徒は、担任，部活動顧問，副担任等の関わりで改善している生徒もいる。

質 教員評価の組織目標は、プロジェクトや校務分掌と関連付けて設定しているか。

答 3つのプロジェクトと関連付け設定し、チームとしての取組を意識化させている。

司 学校運営を推進する上で、プロジェクトを編成したり、工夫したりしている点があったら紹介してほしい。

発 学力向上が課題。教師の授業力を向上させ生徒に反映できるように研究主任を中心にチームを組んで取り組んでいる。授業研究では、教科の枠を超えて多くの先生方に授業参観してもらえかが課題である。（古河市）

発 全職員参加のもと、学期1回7時間目に授業研究を設定したことがある。他教科の先生方も目からうろこの発言があり意識も高まった。（常総市）

発 教科の特性もあり、他教科の先生が授業を見てどんなコメントができるか、中学校の学力向上という点で壁に当たってしまう。〇〇中スタイル（導入，展開，終末時の工夫）を取り入れ、教科にかかわらず全職員が誰かの授業に関わり、各視点からコメントできるような方法で授業研究を進めている。（常総市）

【講師指導】

- 3つのプロジェクト（チーム）を中核とした学校経営について
 - ・「チーム」という言葉を使って、様々な仕掛けをして職員の思いを一つにして、お互いに影響を与えながら目的を達成したいという思いが伝わった。
 - ・「人材育成」「組織力向上」が相互に関連し合うことで、学校力の向上につながっていく。
 - ・成果を上げるために必要な要素として「明確な目標と方針」「プロセスの共有化」「認め合い，高め合う人間関係」を大切にしている。
- 学力アッププロジェクトについて
 - ・学習指導，生徒指導の基盤として教育環境を作ることが最も大切なことである。
 - ・授業改善を中核とした学力向上策を進めるためには、次期学習指導要領で示されるアクティブ・ラーニングの視点から学習過程を質的に改善していく必要がある。
 - ・校内研修の充実を図るためには、協議方法を工夫してみることも有効な手立てとなる。
- 生活アッププロジェクトについて
 - ・生徒自身が自分たちで学校を改善していこうとする仕掛け，教師の率先垂範の姿勢が自治力の育成につながる。
 - ・生徒指導体制の充実では、情報連携・行動連携を大切にする。
- 夢アッププロジェクトについて
 - ・「主体的な学び」については、キャリア教育と関連付けながら進めていくことが重要となってくる。

中学校 第2分科会

司会者 境町立境第一中学校 逆井 昇
提案者 境町立境第二中学校 近納くに江
記録者 境町立境小学校 倉持 勝美
講師 県西教育事務所 人事課長 篠崎 浩 先生



【協議題】 「創意と自校の実情を生かした学校経営の研究と実践」
— 生徒一人一人の学ぶ意欲を高める学校経営を通して —

境町立境第二中学校 学校長 近納 くに江

【提案趣旨】

1 はじめに

新任校長として本校に赴任して4ヶ月。生徒は、落ち着いて授業や部活に取り組み、生活態度もよい反面、学習意欲や表現力に係る課題、さらに全国学力学習状況調査の結果からも改善点が見えてきた。そこで、「一人一人の学ぶ意欲を高める」「現状に満足せず進んで挑戦する生徒を育成する」を目指し、『進取・挑戦』を合い言葉に、学校経営に取り組んだ。

2 学校の概要

- ・明るく素直な反面、積極性に乏しく自分を表現することが苦手な生徒。
- ・県学力診断テストでは全学年とも県平均を下回るなど、学力向上が大きな課題である。
- ・生徒数240名、8学級、職員数25名、職員の平均年齢41.03才

3 実践内容

以下の「4つの視点」からの学校経営に取り組んだ。

◎ 視点1：適切な学校組織マネジメントによる学校運営の工夫改善

- (1) 学校経営ビジョンの構築
- (2) 学校評価と教員評価による学校運営の工夫改善

◎ 視点2：校内研修の充実（授業力の向上を目指して）

- (1) 校内授業研究会の充実
- (2) 若手教員の研修機会の充実
- (3) 学習指導に係るRPDCAサイクルの確立

◎ 視点3：土曜授業の取り組み（文部科学省委託事業）

質の高い土曜授業の実施に資するため、外部人材等の活用など、授業を土曜日等を実施することの利点を生かした実践的な研究を行い、効果的な指導方法やモデルカリキュラムの開発などを行うとともに、その成果の普及を図る。

◎ 視点4：小中連携への取組

小中学校が情報交換や交流連携することを通して、小から中への円滑な接続や中1ギャップの解消をめざした。「境二中学区小中学校連絡協議会」を年3回開催し、9年間を見通した学習指導や生徒指導のあり方を追求した。

4 おわりに

これまでの実践の中で、生徒の学習意欲の向上や生活意欲の向上のカギは「授業の質」にあることを痛感した。つまり、学校経営の基本は「授業づくり」を核とした、あるいは「授業づくり」をスタートラインとする経営体制の構築にある。

本校の土曜授業の推進は、気負わずに、授業改善に向けた刺激剤、あるいは日々の授業を補完する追い風となるような取り組みとして捉えていきたい。

【研究協議】

質 土曜授業は学校の要請なのか。又は町教委からの依頼なのか。

答 町教委から本事業の情報提供があり、協議の結果、実施する運びとなった。

質 土曜授業は講師依頼をはじめ、外部機関との連携が不可欠である。教育委員会は、学校と外部機関の連携を推進するコーディネーター役を担ってくれているのか。

答 教育委員会は学校に対して、情報を提供してくれたり、指導者の派遣について配慮してくれたりしている。しかし、学校の実情に応じた講師派遣は容易ではなく、学校の職員が苦勞していることも事実である。特に、5教科の担当教員の負担が大きいことから、他教科の職員が側面から支援するような工夫をしている。

質 土曜授業によって、職員の多忙感は大きくないのか。

答 職員の多忙感は少なくない。熱心に部活動の指導を行っている職員も多いことから、土曜授業が加わったことで、一層多忙感が増している状況である。

質 土曜授業を実施する上での問題点は何か。

答 土曜日に実施する部活動の大会が多いことから、該当する部活動の部員全員がいなくなることがあり、問題となっている。

質 土曜授業をはじめ、今回の実践で子どもたちの変容や成果が表れたのか。

答 現時点で、数値を示して成果を説明することは難しい。ただ、土曜授業に関する生徒対象のアンケート調査の結果、職員は子どもたちが学習を分かるようになりたいと願っている実態に気づかされた。このことにより、職員の「よい授業をしていこう」というような意識の変容が認められたことが大きな成果である。

質 若手教員の研修について工夫していることは何か。

答 若手教員の性格や資質に応じた指導方法の工夫を心がけている。

【講師指導】

視点1：適切な学校組織マネジメントによる学校運営の工夫改善

- チーム境二中として学校改革に取り組んでいることが伝わる実践である。
 - ・学校経営には「戦略と戦術」が肝要であり、経営資源の効果的活用がポイントとなる。
 - ・組織的・継続的なマネジメントサイクルが大切である。
 - ・「学力向上」に向けた校長の強い思いが伝わる。
 - ・全職員が課題を共有・理解し、組織的に課題解決しようとする「ベクトル」が認められる。
- 教員評価を活かした教員育成が肝要である。(組織目標が重要)

【参考】 教育情報ネットワークで、教員評価の実施に関する要項、標準的な職及び標準職務遂行能力、手引き及び各種様式が公開された。(10月4日付け)

視点2：校内研修の充実

- 授業力の向上に資する校内授業研究会の充実が認められる。
 - ・子どもの変容(学ぶ意欲)は、研修による教師の変容が不可欠である。

【参考】 学力向上研修会(教頭対象)にて示された枝川校長先生(桃山中学校)の資料が参考になる。

視点3：土曜授業の取組

- ねらいを明確にすることが肝要である。
 - ・子ども達を対象としたアンケート結果を見ると学習に対する意識の変容が認められる。アンケート結果を詳細に分析して、今後の学校経営に活かしていくことが大切である。

視点4：小中連携への取組を若手教員の資質育成にも結びつけて欲しい。

【参考】 成果の出る学校

- | | |
|-----------------|---------------------|
| ① 課題の原因を究明している。 | ② 目的と手段が明確である。 |
| ③ 目標が具体的で明確である。 | ④ 課題に対してチームで対応している。 |
| ⑤ 指示命令が明確である。 | ⑥ 予測と希望が明確になっている。 |





講演会

演題 「五輪と私」

講師 リオデジャネイロオリンピック
クレイ射撃日本代表

中山 由起枝 先生

中山由起枝 Yukie Nakayama

中山由起枝(なかやま ゆきえ) 1979年3月7日生 埼玉栄高等学校卒業
クレイ射撃選手。日立建機株式会社所属

シドニー、北京、ロンドンおよびリオオリンピック日本代表。
娘がおり、育児と競技の二足のわらじを履くママさんアスリート。



兄の影響で小学生の時にソフトボールを始める。中学校でもソフトボール部に入り、高校は日本一になりたい、という強い思いで強豪校・埼玉栄高等学校に進学。3年間寮生活をしながら全国私学大会優勝、インターハイ準優勝を果たした。インターハイではベストナイン、捕手でMVPを獲得。中学、高校共に主将を務め、高校3年生の国民体育大会では、埼玉県選抜チームの主将を務めた。

大学や実業団からの勧誘をすべて断り、団体競技のソフトボールから個人競技のクレイ射撃に転向。これまでやってきたソフトボールを通し培った動体視力、瞬間視、瞬発力といった運動能力を生かし、クレイ射撃でオリンピックを目指さないか、と現在所属している日立建機株式会社に引き抜かれた。個人競技への好奇心と未知の世界への挑戦に同意し、高校卒業後、1997年に入社し、同7月には1年間のイタリア射撃修行に出た。

イタリア語を習得しながら射撃修行を続け、約8ヶ月後に参戦した初のイタリア全国大会では強豪選手をおさえ優勝。その後参戦する大会でも優勝を重ねた。
1年の修行を経て、日本国内のナショナル選考会をトップ通過し、日本代表となった。



初の国際大会であるW杯熊本大会にて個人5位、団体2位という成績をおさめた。続くW杯イタリア大会では個人3位入賞。同時にシドニーオリンピックの出場枠を手にした。
この時20歳。クレイ射撃をはじめてわずか1年11ヶ月でオリンピック出場権を得ることとなった。

シドニーオリンピック出場後、結婚と出産。子育てをしながら競技に復帰した。北京、ロンドンオリンピックも経験している。2015年には自己最高点をマークしており、37歳となった今もまだまだ進化中。



母として...

初のオリンピック出場となったシドニーオリンピック後に結婚、出産を経験した。子育てをしている中で自分と向き合い、競技者としてもう一度挑戦したい、と競技に復帰。家族の支えや所属会社の理解を得て、再びママさんアスリートとして銃を持つこととなった。

競技と子育てを両立させる道は平坦ではなかった。しかし周囲のサポートを受け、再び北京でオリンピックの切符を手に入れた。メダルにはあと一步届かなかったものの、4位入賞を果たした。

自分にしかない子どもとの絆や私流子育てストーリーが再度オリンピックを目指す原動力となり、自身3度目の出場となるロンドンオリンピックへの切符を手にした。現在では娘の影響で、過去に打ち込んだソフトボールの外部コーチを地元中学で務めながら、自身の射撃にも共通するものを取り入れている。

<主な経歴>

1999年: 熊本W杯 個人5位、団体2位
 イタリアW杯 個人3位
 2000年: アジア選手権マレーシア大会 2位
 シドニー五輪 ダブルトラップ 13位
 2003年: 出産後、競技復帰
 全日本選手権 優勝
 2006年: アジア選手権シンガポール大会 優勝
 2007年: 韓国W杯 個人優勝
 2008年: 北京五輪 4位
 (日本女子トラップ五輪最高順位)
 2010年: 広州アジア大会 トラップ 個人優勝
 (日本人初)
 ミュンヘン世界選手権 6位
 2011年: 全日本選手権 男女混合 個人優勝

2012年: アジア選手権ドーハ大会 個人3位
 ロンドン五輪 予選15位
 全日本選手権 男女混合 個人優勝
 国民体育大会 男女混合 個人優勝
 2013年: 世界選手権リマ大会 トラップ 個人2位
 2014年: 仁川アジア大会 2位
 2015年: アゼルバイジャンW杯 トラップ 個人優勝
 (日本最高新記録樹マーク)



<その他経歴>

2007年: 第57回日本スポーツ賞 優秀選手賞
 2008年: 第58回日本スポーツ賞 優秀選手賞
 2009年: 結城市市民栄誉賞
 2010年: 第60回日本スポーツ賞 優秀選手賞
 2011年: 第61回日本スポーツ賞 優秀選手賞

2012年: 第62回日本スポーツ賞 優秀選手賞
 2013年: 第63回日本スポーツ賞 優秀選手賞
 結城市紬大使任命
 2014年: 第64回日本スポーツ賞 優秀選手賞
 茨城県特別功労賞
 2015年: 第65回日本スポーツ賞 優秀選手賞

平成28年度

研 究 委 員 長	野村 剛（五霞中）
研 究 副 委 員 長	海老原孝之（沓掛小）
研 究 副 委 員 長	鈴木 聡（結城東中）
研修・記録委員長	山口 忠（大田小）
研 修・記 録 委 員	杉山 吉男（坂戸小）
研 修・記 録 委 員	増田 徹（東部中）
研 修・記 録 委 員	袖山 政佳（長讃小）